

令和2年度 第1回 帯広市行財政改革推進委員会 議事要旨

日時：令和2年10月5日（月）午後3時～午後4時

場所：帯広市役所 10階 第2会議室

□ 出席委員（五十音順）

岩崎優子委員、岩本博幸委員、河西智子委員、久門修委員、坪沙代委員、三品幸広委員

□ 事務局

総務部 組織人事室 人事課

河原職員監、天池人事課長、藤芳行政改革主幹、永守人事・行革係長、守山主任補

□ 傍聴者等

報道関係者2名

□ 会議次第

1 開会

2 委員紹介

3 本委員会について

4 議題

（1）委員長の選任及び委員長職務代理者の指定

（2）帯広市行財政改革計画の取組状況について

（3）その他

5 閉会

□ 委員からの意見等

議題(1) 委員長の選任及び委員長職務代理者の指定

- ・委員の互選により、岩本委員が委員長に就任した
- ・岩本委員長より、岩崎委員を委員長職務代理者に指定した

議題(2) 帯広市行財政改革計画の取組状況について

- ・今後のスケジュールはどのような予定か。また、客観的な指標による進捗の評価を行うのか。
- ・2つの指標のうち、この委員会の中で具体的な議論ができるのは指標2の時間外勤務時間に関する部分であると思う。
- ・計画によって効率化が進むものがある一方で、コロナ禍のように予測しがたい状況の変化の影響を受けることもある。このあたりをどのように受け止め、評価していくか、という部分は議論が必要。
- ・イレギュラーな要因によって、財政的にコストがどれくらい変わってくるのか、という点も見ていく必要がある。

- ・効率化によって業務に余裕が生まれると、これまで十分にやり切れていないと感じる部分を充実させる方向に進み、結果として、すぐには結果が出てこないという場合もあるのでは。
- ・定性的でも構わないので、職員の柔軟な配置や連携などの効果については、市民にもわかりやすく示していくべき。
- ・外からは見えにくい部分がわかりやすく見えてくると、何らかの効果があるのだなという部分も伝わり、指標1のアンケートの数値につながっていくのではないか。
- ・今回の委員会の資料についても、事前にデータで資料を送付するなど、少しずつ市役所でも業務改善が行われてきていると感じている。
- ・取組項目の1-1で、保育所の民間移管と定員の縮小を進めているとのことだが、民間移管等による市民へのマイナスの影響はないのか。
- ・RPAや人工知能などを活かすことによって、職員の負担が減っていくとは思われるが、どの程度の費用が必要となるものなのか。
- ・忙しい課とそうでない課でばらつきがあるとの話もあったが、そもそもの仕組みを見直すことで、3～4月に業務が集中しないようにする検討も必要ではないか。
- ・結局、いろいろなところで問題となるのは、中堅以上の職員の意識改革がないと、若い職員がついていけないということだろう。若手の職員が継続して生き生きと仕事をしていけるよう、人材育成の観点から行政改革の取組を強化していくことが必要では。
- ・国の方でも、行革担当大臣がペーパーレスでハンコを廃止したいということで動いているので、うまくこの変化を活かして行ってほしい。
- ・学校との関わりなどを通じて、柔軟な対応に当たっている指定管理者などの民間事業者にも接しており、民間委託によるメリットは感じている。外向きにも民間委託により効率化された部分が見えてくると良いと思う。
- ・取組項目の1-2のごみ収集に関しては、財政的なメリットもあると捉えてよいのか。
- ・効率化のメリットについては、財政的な事情も踏まえると、もちろん大切な論点だが、一方で、それによって何を達成するのかと考えると、市としてしっかりと行政サービスを提供していくということに帰着する。
- ・わかりやすく市民にメリットが伝わるように、委員会の中でもそのあたりが見えてくれば、市民へ公開していったときに、財政的な部分も含めて行政の質が向上しているのだということを理解しやすい構造になると思う。
- ・せっかくやっていることなので、しっかりとアピールし、市民に実感してもらうことが必要。そういったところがきちんと評価されることが重要である。
- ・各委員からのご意見を市の方でしっかりと活用し、今後のさらなる取組につなげていくようお願いしたい。

議題(3) その他

- ・事務局より、次回の委員会は令和3年2月頃を予定している旨を説明
- ・次回の開催方法等は、コロナウイルスの状況等を勘案して調整する